

カリキュラム

第1回 日本のペットライフの特徴とホームドクターの必要性

海外と比較した場合に見えてくる日本のペットライフの特徴、なぜグリーフケアを提供するホームドクターが求められるのか。海外との違いを理解しながら日本の文化に合った動物医療を提供していくために必要となる人やペットが抱えるグリーフについて解説します。

第2回 グリーフの意味と心理過程

自分にとって重要な対象の喪失または喪失を予想したときに発生するグリーフは人にとってごく自然な心理反応。グリーフの心理過程には基本パターンが存在しグリーフケアを実践していく上で重要となります。しかし、長い教育課程で教えられなかったグリーフの心理過程について解説します。

第3回 グリーフケアコミュニケーション

コミュニケーションの正しい理解。現代のペットライフで求められるペットと人との心情のキャッチボールについて解説するとともに医療者が持つ偏見や決めつけがペットや飼い主のグリーフを加算する危険があることを理解していただきます。

第4回 待合室診療の実践

動物病院がペットの安全基地になるために診察の順番を待つ時間に大きくなってしまいうペットや飼い主のグリーフを防ぐことができる待合室診療。待ち時間はただ待つことしかできずストレスだった状況から待っている時間が有意義となる待合室でのグリーフケアについて、待合室で見られるグリーフとアプローチ方法について解説します。

第5回 ペットに現れるグリーフとグリーフケア

ペットとは人に会い暮らしている動物のことです。ペットという動物を理解しペットの抱えるグリーフを考えます。ペットの当たり前の日常がどんなときに、どんな原因で変化してしまうのか。ペット目線となり安全感が脅かされ緊張や警戒心などのグリーフを早期発見し早期にグリーフケアを始められるよう具体的に解説します。

第6回 治る病気でのグリーフケア

ペットの存在が重要になればなるほどいつもと違う様子を見た飼い主にはグリーフが発生します。治る病気であっても笑顔で続けてきた当たり前の日常が脅かされ発生するグリーフ。医療者目線になってしまうことで新たなグリーフを与える危険があり、グリーフの正しい理解が求められます。ペットと飼い主の安全基地であるホームで不安や疑問が大きく加算されてしまうことを防ぎたい！治る病気のとときに飼い主に我がコへのグリーフケアを実践してもらうことで将来のターミナル期に生きることへの理解を深めます。

第7回 治らない病気でのグリーフケア①

愛するペットに治らない病気を宣告された飼い主のグリーフの心理過程、特に衝撃期に対するグリーフケアを中心に解説します。グリーフケアが取り入れられない診療で誤解や行き違いを生んでいる現状、また病気や治療に関する情報だけではなく心情のインフォームドコンセントの重要性について解説します。

第8回 治らない病気でのグリーフケア②

具体的なケーススタディを中心に個々に合ったターミナル期でのグリーフケアについてご紹介します。ペットを主役にして飼い主参加型でアイデアを考えながらギフトとなる医療を目指しましょう。自分自身の視野を広げながらグリーフケアの引き出しを増やすポイントを解説します。

第9回 安楽死と尊厳死

日本の文化ではマイナスのイメージが強い安楽死。教育課程では教えてもらう機会がなく中途半端な理解で安楽死が実施される結果、大きなグリーフが生まれます。ペットに贈る安全なエンディングとして安楽死がギフトとなったとき「尊厳死」と言うことができます。尊厳死となるために考えなくてはならないグリーフケアについて解説します。

第10回 死後のグリーフケアと命のバトンタッチ

ペットと人が信頼の絆で結ばれる現代、死後にグリーフは避けられない。生前のグリーフケアに引き続き死後のグリーフケアを提供していくことは飼い主の大きな救い。グリーフの心理プロセスが健全に進んでいくようサポートし命のバトンタッチにつなげたい。死後に気持ちの温度差などグリーフを加算してしまう原因をお伝えしながら死後の救いとなるグリーフケアについて解説する。